

ANCL

ShareTask 5.5

(doc#07)

バージョンアップマニュアル 2.1

アンクル
2014 年

改訂履歴

| 日付 | 版 | 内容 |
|-----------|-----|--|
| 2014/2/9 | 1.0 | 初版 |
| 2014/4/15 | 2.0 | 大幅改訂 |
| 2014/4/19 | 2.1 | 3.7 の誤記修正 2.2 を改訂 3.4, 3.8.4 を追加 |

目次

| | | |
|--------|-----------------------------|----|
| 1 | はじめに | 7 |
| 2 | ShareTask サーバーのバージョンアップの準備 | 7 |
| 2.1 | サービスを停止する | 7 |
| 2.2 | バックアップをとる | 8 |
| 2.3 | バックアップからのリストア | 9 |
| 3 | ShareTask サーバー新バージョンのインストール | 11 |
| 3.1 | パッケージを展開する | 11 |
| 3.2 | シンボリックリンクを変更する | 11 |
| 3.3 | カスタマイズ部を更新する | 12 |
| 3.4 | カスタマイズ部との連携を設定する | 13 |
| 3.5 | ディレクトリを作成する | 14 |
| 3.6 | Perl モジュールを確認する | 14 |
| 3.7 | データベースをアップグレードする | 15 |
| 3.8 | 設定ファイルを調整する | 15 |
| 3.8.1 | データベース接続認証パラメータの編集 | 16 |
| 3.8.2 | CUSTOM パラメータの編集 | 16 |
| 3.8.3 | sudo に関する仕様変更 | 17 |
| 3.8.4 | ユーザー選択値記憶の設定 | 18 |
| 3.8.5 | ファイルオーナーの変更 | 18 |
| 3.9 | OS 関連設定を調整する | 18 |
| 3.10 | サービスを起動する | 18 |
| 3.11 | ライセンスを登録する | 20 |
| 3.11.1 | ブラウザからライセンスファイルをアップロードする方法 | 20 |
| 3.11.2 | コマンドを使って登録する方法 | 20 |
| 3.12 | 動作を確認する | 20 |
| 4 | エージェントのバージョンアップ (Windows) | 22 |
| 4.1 | エージェントを停止する | 22 |

| | | |
|-----|--|----|
| 4.2 | パッケージを展開する | 22 |
| 4.3 | PSTools をインストールする | 22 |
| 4.4 | システム環境変数を設定する | 23 |
| 4.5 | 設定ファイルを旧環境からコピーする | 23 |
| 4.6 | カスタマイズしたラッパースクリプトを旧環境からコピーする | 23 |
| 4.7 | エージェント起動スクリプトを調整する | 23 |
| 4.8 | エージェントを起動する | 24 |
| 5 | コマンドラインのバージョンアップ (Windows) | 25 |
| 5.1 | パッケージを展開する | 25 |
| 5.2 | システム環境変数を設定する | 25 |
| 5.3 | 設定ファイルを旧環境からコピーする | 25 |
| 6 | エージェントのバージョンアップ (Linux) | 26 |
| 6.1 | エージェントを停止する | 26 |
| 6.2 | パッケージを展開する | 26 |
| 6.3 | シンボリックリンクを変更する | 26 |
| 6.4 | 環境設定を行う | 27 |
| 6.5 | 設定ファイルを旧環境からコピーする | 27 |
| 6.6 | カスタマイズしたラッパースクリプトを旧環境からコピーする | 27 |
| 6.7 | エージェントを起動する | 27 |
| 7 | コマンドラインのバージョンアップ (Linux) | 28 |
| 7.1 | パッケージを展開する | 28 |
| 7.2 | シンボリックリンクを変更する | 28 |
| 7.3 | 環境設定を行う | 28 |
| 7.4 | 設定ファイルを旧環境からコピーする | 29 |

1 はじめに

本文書は、ShareTask 5.5 へバージョンアップするための手順を説明しています。

2 ShareTask サーバーのバージョンアップの準備

2.1 サービスを停止する

ShareTask サーバーを構成しているサービス (プロセス) を下記の順番で停止します。

- stlogd (ログ収集デーモン)
- sharetaskd (各種情報収集デーモン)
- httpd (Apache ウェブサーバー)
- memcached (メモリーキャッシュデーモン)
- postgresql (データベース)

停止方法は、service コマンドを使用するか、/etc/init.d/にあるスクリプトを直接起動します。

以下の作業は、root 権限で行ってください

例 1 : service コマンドを使用する方法

```
service stlogd stop
service sharetaskd stop
service httpd stop
service memcached stop
service postgresql stop
```

例 2 : /etc/init.d/にあるスクリプトを直接起動する方法

```
/etc/init.d/stlogd stop
/etc/init.d/sharetaskd stop
/etc/init.d/httpd stop
/etc/init.d/memcached stop
/etc/init.d/postgresql stop
```

注意

sharetaskd、stlogd は、これを使用しない運用もあり得ます。その場合は、`/etc/init.d/sharetaskd`、`/etc/init.d/stlogd` が存在していない、あるいはプロセスが存在していないため、上記の停止操作においてエラーメッセージが表示されますが、問題ではないので無視してください。

2.2 バックアップをとる

ShareTask サーバーの実行環境は、`/home/sharetask` にまとめられています。ここには、プログラム、設定ファイル、データベース実体が格納されていますので、このディレクトリ配下をバックアップすることで、ShareTask の運用状態のすべてをバックアップすることができます。

注意

以下の作業は、root 権限で行ってください。また、前節 2.1 で説明したデータベースサービス postgresql の停止を必ず行った上で作業してください。postgresql が稼働したまま作成されたバックアップファイルからは、データベースを復元できない危険性があります。

```
cd /home
tar czf - sharetask/* > /tmp/sharetask_bkup.tar.gz
```

念のため sharetaskd、stlogd のランスクリプトもバックアップしておきます。

```
cd /etc/init.d
cp sharetaskd stlogd /tmp
```


注意

/home/sharetask がディレクトリ実体ではなく、シンボリックリンクとするインストールがなされている場合があります。その場合、

```
tar czf - sharetask > /tmp/sharetask_bkup.tar.gz
```

とすると、シンボリックリンクだけがアーカイブされますので注意が必要です。

```
tar czf - sharetask/* > /tmp/sharetask_bkup.tar.gz
```

とすれば、シンボリックリンクが差している先の実体ディレクトリを手繰ってアーカイブすることができます。

あるいは、実体のディレクトリへ移動してアーカイブ操作を行ってください。その方がより確実にバックアップファイルをつくることができます。

例：実体が/opt/sharetask にインストールされている場合

```
cd /opt
tar czf - sharetask > /tmp/sharetask_bkup.tar.gz
```

作成された以下のファイルを安全な場所に移動して保管してください。

/tmp/sharetask_bkup.tar.gz

/tmp/sharetaskd

/tmp/stlogd

これで準備は完了です。新バージョンのインストール作業 3 章に進みます。

2.3 バックアップからのリストア

バックアップファイルからのリストア方法について説明しておきます。

万が一、バージョンアップ作業に失敗した場合は、以下の手順でバックアップファイルからインストール状態を復元できます。

```
cd /home
mv sharetask sharetask.broken
tar xzf - < /tmp/sharetask_bkup.tar.gz
```

このリストア方法は、バージョンアップ作業のどの時点でも適用できます。もし、操作ミス等で混乱した状況に陥り、復旧が困難な場合には、このリストア方法で旧バージョンのインストール状態を復元してください。

インストールディレクトリの実体が `/home/sharetask` ではない場合は、適宜対応してください。

3 ShareTask サーバー新バージョンのインストール

3.1 パッケージを展開する

CD に収められている ShareTask サーバーのパッケージファイル

```
sharetask_server-5.5.x-y.tar.gz
```

を/home/sharetask の直下に展開します。

以下の作業は、root 権限で行ってください

```
cd /home
tar xzf - < sharetask_server-5.5.x-y.tar.gz
```

これで、/home/sharetask/sharetask_server-5.5.x-y というディレクトリができます。これが新しいバージョンの ShareTask サーバーの環境です。

注意

5.5.x-y と記述されているところは、実際のバージョン名に置き換えて読んでください。以下、同様です。

3.2 シンボリックリンクを変更する

/home/sharetask/sharetask_server というシンボリックリンクが、旧バージョンのディレクトリ sharetask_server-* を指しているはずです。これを前節の作業で展開した新バージョンのディレクトリを指すように変更します。

以下の作業は、root 権限で行ってください

```
cd /home/sharetask
rm sharetask_server
ln -s sharetask_server-5.5.x-y sharetask_server
```

旧バージョンへの復元方法

旧バージョンのディレクトリ `sharetask_server-*` は、万が一の場合の重要な復元ポイントになります。バージョンアップ作業をここで取りやめる場合は、シンボリックリンクを元に戻すことで、旧バージョンに戻ることができます。

```
cd /home/sharetask
rm sharetask_server
ln -s sharetask_server-{OLDVERSION} sharetask_server
```

もし、操作ミス等で混乱した状況になった場合は、2.3 節で説明した方法で、旧バージョンの状態へ復元してください。

3.3 カスタマイズ部を更新する

カスタマイズ部が提供されている場合 (`/home/sharetask/custom` ディレクトリが提供されている場合) は、CD からカスタマイズ部のパッケージ

`custom_{UID}_{DATE}.tar.gz`

を取り出して展開します。 `_{UID}_{DATE}` の部分は、実際に提供されたファイル名で読み替えてください。

展開操作に入る前に、復元ポイントとして、旧バージョンの `/home/sharetask/custom` ディレクトリのコピーを作成しておきます。

以下の作業は、`root` 権限で行ってください

```
cd /home/sharetask
cp -a custom custom.OLD
```

では、カスタマイズ部のパッケージを展開します。

```
cd /home/sharetask
tar xzf - < custom_{UID}_{DATE}.tar.gz
```

これで、/home/sharetask/custom ディレクトリが上書き更新されます。

旧バージョンへの復元方法

旧バージョンのディレクトリ custom.OLD は、万が一の場合の重要な復元ポイントになります。バージョンアップ作業をここで取りやめる場合は、ディレクトリを元に戻すことで、旧バージョンに戻ることができます。

```
cd /home/sharetask
mv custom custom.NEW
mv custom.OLD custom
```

custom ディレクトリを復元したら、前節の sharetask_server のシンボリックリンクの復元も行ってください。

もし、操作ミス等で混乱した状況になった場合は、2.3 節で説明した方法で、旧バージョンの状態へ復元してください。

3.4 カスタマイズ部との連携を設定する

カスタマイズ部が提供されている場合は、以下の手順を実行してください。

```
cd /home/sharetask/sharetask_server/public_html
mkdir -p custom
mkdir -p js.pack/custom
cd /home/sharetask/sharetask_server/tools/custom
perl custom_symlink.pl make NAB
```

これは、カスタマイズ部との連携を設定するものです。

3.5 ディレクトリを作成する

旧バージョンでは存在しなかったディレクトリを作成します。

存在していれば何もすることはありません。

ディレクトリのオーナーは、apache にしてください。

```
cd /home/sharetask

mkdir sharetask_users
chown apache: sharetask_users

mkdir sharetask_template
chown apache: sharetask_template

mkdir sharetask_rra
mkdir sharetask_rra/status
mkdir sharetask_rra/image_cache
chown -R apache: sharetask_rra
```

3.6 Perl モジュールを確認する

Perl モジュールに不足がないかをチェックします。

```
cd /home/sharetask/sharetask_server/tools/check_install
./check_compile_error.pl ../../cgi-common/
./check_compile_error.pl ../../public_html/
```

エラーメッセージをチェックして、不足しているモジュールがあればインストールします。

3.11 で説明するライセンス登録において、Archive::Tar モジュールが必要になります。RHEL/CentOS の場合は、

`yum install perl-Archive-Tar`

でインストールしてください。もし、インターネットに接続していない環境の場合は、RPM ファイルを入手してインストールしてください。RPM ファイルの入手方法が不明な場合は、代理店へお問い合わせください。

3.7 データベースをアップグレードする

データベースの構造を最新版に整合するように変更します。本節の手順を実行することによって、データベースに記憶されている内容を新バージョンへ引き継ぐことができます。

データベースサービス `postgresql` を起動した上で、アップグレードスクリプトを実行します。

以下の作業は、`root` 権限で行ってください

```
service postgresql start
cd /home/sharetask/sharetask_server/tools/upgrade_utils
perl database_upgrade.pl --start
```

このアップグレードスクリプトの実行には、時間がかかります。終了するまで待ちます。

3.8 設定ファイルを調整する

設定ファイルは、`/home/sharetask/sharetask_server/conf` ディレクトリに収められています。基本的には、旧環境の設定ファイルを引き継いで使用し、これに新バージョンで変更・追加されたパラメータについて編集します。

まず、旧環境の `conf` ディレクトリをコピーします。

```
cd /home/sharetask/sharetask_server
mv conf conf.ORG
cp -a /home/sharetask/sharetask_server-{OLDVERSION}/conf .
```

3.8.1 データベース接続認証パラメータの編集

バージョン 5.5 から、データベース接続認証パラメータを記述するファイルが、db.conf から system.conf へ変更され、db.conf は廃止されました。

旧環境の db.conf に記述されている内容を新環境の system.conf に書き写します。

バージョン 5.4 以前の db.conf の記述形式

```
dbhost = localhost
dbport = 5432
dbname = stask_mpi
dbuser = stask_mpi
dbpass =
sslmode = disable
```

バージョン 5.5 の system.conf の記述形式

```
SHARETASK_DB = $dbname:$dbhost:$dbport:$dbuser:$dbpass:$sslmode
```

具体的には、UNIX ドメインソケット接続の場合は、下記の行を

```
SHARETASK_DB = stask_mpi::stask_mpi::prefer
```

一方、TCP ソケット接続の場合は、下記の行を

```
SHARETASK_DB = stask_mpi:localhost:5432:stask_mpi::prefer
```

system.conf に追加してください。

3.8.2 CUSTOM パラメータの編集

提供されたパッケージにカスタマイズ部を収めたアーカイブファイル

```
custom_{UID}_{DATE}.tar.gz
```

が含まれている場合は、CUSTOM パラメータの設定行を system.conf に記述する必要があります。この行がないと、カスタマイズ部の機能が動きません。

```
CUSTOM = XYZ
```


この XYZ の文字列は、custom アーカイブファイル名のユーザー ID 部分、下記の {UID} 部分の文字列 (大文字 3 ~ 4 文字) です。

```
custom_{UID}_{DATE}.tar.gz
```

3.8.3 sudo に関する仕様変更

sudo の設定では、suidperl は非推奨となりました。system.conf の記述で

```
SUID_METHOD = sudo
```

と設定して、sudo を使用するようにしてください。

setuid が必要なスクリプトが存在しますので、

```
/home/sharetask/sharetask_server/etc/sudoers.example
```

の内容を

```
/etc/sudoers
```

の最後に追記してください。具体的には、下記です。

```
Defaults:apache !requiretty
```

```
Defaults:apache !env_reset
```

```
Cmnd_Alias SHARETASK = (以下 まで 1 行)
```

```
/home/sharetask/sharetask_server/cgi-common/bin/auth_pam,
```

```
/home/sharetask/sharetask_server/cgi-common/bin/make_user_subdir,
```

```
/home/sharetask/sharetask_server/cgi-common/bin/delete_user_file,
```

```
/home/sharetask/sharetask_server/cgi-common/bin/chown_template,
```

```
/home/sharetask/sharetask_server/cgi-common/bin/explorer
```

```
apache ALL=(ALL) NOPASSWD: SHARETASK
```

補足

以上、ご説明した設定パラメータの他に、バージョン 5.5 から新規に導入されたパラメータがいくつかありますが、基本的には内部標準値でお使いいただけますので、system.conf の中で明示的に指定する必要はありません。

3.8.4 ユーザー選択値記憶の設定

バージョン 5.5 からは、ユーザーが画面上で選択・入力した内容を記憶して、次回同じ画面を表示したときに、その選択・入力内容を初期値として呼び出す機能が導入されています。

この機能を使用するには、下記パラメータを `system.conf` に追加してください。

```
ENABLE_USER_PREFS = 1
USER_PREFS_DIR = /home/sharetask/sharetask_users
```

`system.conf` 内の位置は任意ですが、新しいパラメータは、冒頭にまとめるとわかりやすいのでお勧めします。

3.8.5 ファイルオーナーの変更

`conf` ディレクトリ以下のオーナーを `apache` にします。

```
chown -R apache: /home/sharetask/sharetask_server/conf
```

3.9 OS 関連設定を調整する

`init` 関連のアップデートを行います。`sharetaskd`, `stlogd` を使用していなければ、この手順は省略できます。

```
cd /home/sharetask/sharetask_server/sharetaskd
cp sharetaskd.init /etc/sysconfig/sharetaskd
cp stlogd.init /etc/sysconfig/stlogd
```

`sharetask_server/conf/etc.example` に `httpd`、ログローテートなどの設定ファイルのサンプルがありますので、参考にしてください。必要であれば適宜設定してください。

3.10 サービスを起動する

停止していたサービスを起動します。

以下の作業は、root 権限で行ってください

```
service memcached start
service httpd start
service sharetaskd start   (必要な場合)
service stlogd start      (必要な場合)
```

postgresql は、データベースのアップグレードの手順ですでに起動しています。念のために、各サービスが OS 起動時に自動起動する設定になっているかを確認します。

```
chkconfig --list httpd
httpd      0:off  1:off  2:on   3:on   4:on   5:on   6:off

chkconfig --list postgresql
postgresql 0:off  1:off  2:on   3:on   4:on   5:on   6:off

chkconfig --list memcached
memcached  0:off  1:off  2:on   3:on   4:on   5:on   6:off

chkconfig --list sharetaskd
sharetaskd 0:off  1:off  2:on   3:on   4:on   5:on   6:off

chkconfig --list stlogd
stlogd     0:off  1:off  2:on   3:on   4:on   5:on   6:off
```

自動起動になっていないサービスについては、自動起動設定を行います。

```
chkconfig httpd on
chkconfig postgresql on
chkconfig memcached on
chkconfig sharetaskd on
chkconfig stlogd on
```

sharetaskd, stlogd については、これらを使用しない運用もありますので、適宜省略してください。

3.11 ライセンスを登録する

ライセンスの登録方法が変更されています。

従来は、/home/sharetask/sharetask_server/conf/license ディレクトリにライセンスファイルを置きましたが、データベースに登録する方法に変更されています。データベースに登録するには2つの方法があります。

3.11.1 ブラウザからライセンスファイルをアップロードする方法

`http://{SERVERHOST}/license.html`

(`{SERVERHOST}` は ShareTask サーバーのホスト)

にアクセスすると、ライセンスファイルをアップロードするフォームが表示されますので、ライセンスファイル

`License_{USERID}_{EXPIRE}_{JOBS}.tar.gz`

をアップロードしてください。

3.11.2 コマンドを使って登録する方法

サーバーローカルからコマンドを使って登録することができます。

```
cd /home/sharetask/sharetask_server/tools/license/  
perl install_license.pl --install (下行へ続く)  
    License_{USERID}_{EXPIRE}_{JOBS}.tar.gz
```

注意

古いライセンスファイルは、削除しないことを推奨します。新しいライセンスファイルが登録される前に、古いライセンスファイルを削除してしまうと、ブラウザからの操作が不可能になってしまうためです。古いライセンスファイルが残っていても問題はありません。

3.12 動作を確認する

以上で、バージョンアップは完了です。動作を確認してください。

エラーログ

/var/log/httpd/error_log

を確認してエラーメッセージが出力されていれば適宜対応してください。

不明な点は、お問い合わせください。

4 エージェントのバージョンアップ (Windows)

Windows のエージェントのバージョンアップ手順を説明します。

4.1 エージェントを停止する

エージェントが稼働していれば、これを停止します。

4.2 パッケージを展開する

パッケージ `sharetask-client-5.2.x.y.zip` を展開して

`C:\sharetask-5.2.x.y`

として配置します。

注意

5.2.x.y と記述されているところは、実際のバージョン名に置き換えて読んでください。以下、同様です。

4.3 PSTools をインストールする

Windows Sysinternals の PSTools をインストールします。すでにインストールしてある場合は、インストールフォルダが

`C:\PStools`

であることを確認して次の節へ進んでください。

PSTools は下記サイトからダウンロードします。

<http://technet.microsoft.com/ja-jp/sysinternals>

ダウンロードした `PStools.zip` を

`C:\PStools`

として展開します。

4.4 システム環境変数を設定する

環境変数を設定します。

```
SHARETASK_HOME=C:\sharetask-5.2.x.y
```

を追加します。

環境変数 PATH の先頭に

```
C:\sharetask-5.2.x.y\bin_win;C:\PSTools;
```

を追加します。

4.5 設定ファイルを旧環境からコピーする

下記の設定ファイルを旧バージョンからコピーします。

```
C:\sharetask-5.2.x.y\etc\stclient.init
```

```
C:\sharetask-5.2.x.y\conf\stagent-boot.conf
```

```
C:\sharetask-5.2.x.y\etc\log4j_win.prop
```

```
C:\sharetask-5.2.x.y\var\spool\sharetask\auth\  
    agent_auth.conf  
    agent_auth.key
```

4.6 カスタマイズしたラッパースクリプトを旧環境からコピーする

下記ディレクトリには、カスタマイズされたスクリプトが置かれている場合があります。適宜判断して新環境へコピーしてください。

```
C:\sharetask-*\appl
```

4.7 エージェント起動スクリプトを調整する

```
C:\sharetask-5.2.x.y\bin_agent_win\stagent.bat
```

の下記行を必要に応じて修正します。

```
set HOSTNAME=%COMPUTERNAME%
```

コンピュータ名が IP アドレスへ名前解決できるのであれば修正不要ですが、そうでない場合は、IP アドレスを指定してください。

4.8 エージェントを起動する

```
C:\sharetask-5.2.x.y\bin_agent_win\stagent.bat
```

を実行してエージェントを起動します。

5 コマンドラインのバージョンアップ (Windows)

Windows のコマンドラインのバージョンアップ手順を説明します。

5.1 パッケージを展開する

パッケージ `sharetask-client-5.2.x.y.zip` を展開して

```
C:\sharetask-5.2.x.y
```

として配置します。

注意

5.2.x.y と記述されているところは、実際のバージョン名に置き換えて読んでください。以下、同様です。

5.2 システム環境変数を設定する

環境変数を設定します。

```
SHARETASK_HOME=C:\sharetask-5.2.x.y
```

を追加します。

環境変数 `PATH` の先頭に

```
C:\sharetask-5.2.x.y\bin_win;
```

を追加します。

5.3 設定ファイルを旧環境からコピーする

下記の設定ファイルを旧バージョンからコピーします。

```
C:\sharetask-5.2.x.y\etc\stclient.init
```

6 エージェントのバージョンアップ (Linux)

Linux のエージェント、コマンドラインのバージョンアップ手順を説明します。

6.1 エージェントを停止する

エージェントが稼働していれば、これを停止します。

```
service sharetask-agent stop
```

6.2 パッケージを展開する

パッケージ `sharetask-client-5.2.x.y.zip` を展開して

`/usr/local/sharetask-5.2.x.y`

として配置します。

注意

5.2.x.y と記述されているところは、実際のバージョン名に置き換えて読んでください。以下、同様です。

```
cd /usr/local
unzip -q sharetask-client-5.2.x.y.zip
```

6.3 シンボリックリンクを変更する

`/usr/local/sharetask` というシンボリックリンクが、旧バージョンのディレクトリ `sharetask-*` を指しているはずです。これを新しいバージョンのディレクトリを指すように変更します。

```
cd /usr/local
rm sharetask
ln -s sharetask-5.2.x.y sharetask
```

6.4 環境設定を行う

/usr/local/sharetask/Makefile を使用して、一連の環境設定を行います。

```
cd /usr/local/sharetask
make install_agent
```

6.5 設定ファイルを旧環境からコピーする

下記の設定ファイルを旧バージョンからコピーします。

```
/usr/local/sharetask/etc/stclient.init
```

```
/usr/local/sharetask/conf/stagent-boot.conf
```

```
/usr/local/sharetask/etc/log4j.prop
```

6.6 カスタマイズしたラッパースクリプトを旧環境からコピーする

下記ディレクトリには、カスタマイズされたシェルスクリプトが置かれている場合があります。適宜判断して新環境へコピーしてください。

```
/usr/local/sharetask/appl/
```

6.7 エージェントを起動する

エージェントを起動します。

```
service sharetask-agent start
```

7 コマンドラインのバージョンアップ (Linux)

Linux のコマンドラインのバージョンアップ手順を説明します。

7.1 パッケージを展開する

パッケージ `sharetask-client-5.2.x.y.zip` を展開して

```
/usr/local/sharetask-5.2.x.y
```

として配置します。

注意

5.2.x.y と記述されているところは、実際のバージョン名に置き換えて読んでください。以下、同様です。

```
cd /usr/local
unzip -q sharetask-client-5.2.x.y.zip
```

7.2 シンボリックリンクを変更する

`/usr/local/sharetask` というシンボリックリンクが、旧バージョンのディレクトリ `sharetask-*` を指しているはずですが、これを新しいバージョンのディレクトリを指すように変更します。

```
cd /usr/local
rm sharetask
ln -s sharetask-5.2.x.y sharetask
```

7.3 環境設定を行う

`/usr/local/sharetask/Makefile` を使用して、一連の環境設定を行います。

```
cd /usr/local/sharetask  
make install_command
```

7.4 設定ファイルを旧環境からコピーする

下記の設定ファイルを旧バージョンからコピーします。

```
/usr/local/sharetask/etc/stclient.init
```

以上